



倉敷市立自然史博物館
REBORN

新自然史博物館・ライフパーク倉敷整備基本計画
展示計画（案）

令和6年8月
倉敷市教育委員会

目次

第3章 新自然史博物館整備について

4 展示計画

- (1) 新自然史博物館のコンセプト 2
- (2) めざす姿と来館者の体験及び展示テーマ 3
- (3) 展示構成 4
- (4) 主な展示内容 5

5 施設計画及び配置計画

- (1) 新自然史博物館ゾーニング 9
- (2) 導入展示「生命の大行進」展示予定の資料一覧 10

リニューアル事業におけるロゴについて



今はもう絶滅してしまったナウマンゾウも、遠く大海原にくらすクジラも、足元の小さな虫や草花たちも、
どれもみな、地球の誕生以来脈々と続く生命のリレーの中に生きている。
このロゴマークは、地球を彩るそんな生きものたちの賑やかなつながりを表しています。
まだ知らない46億年で育まれた8千万種のふしぎに会える博物館へ。

4 展示計画

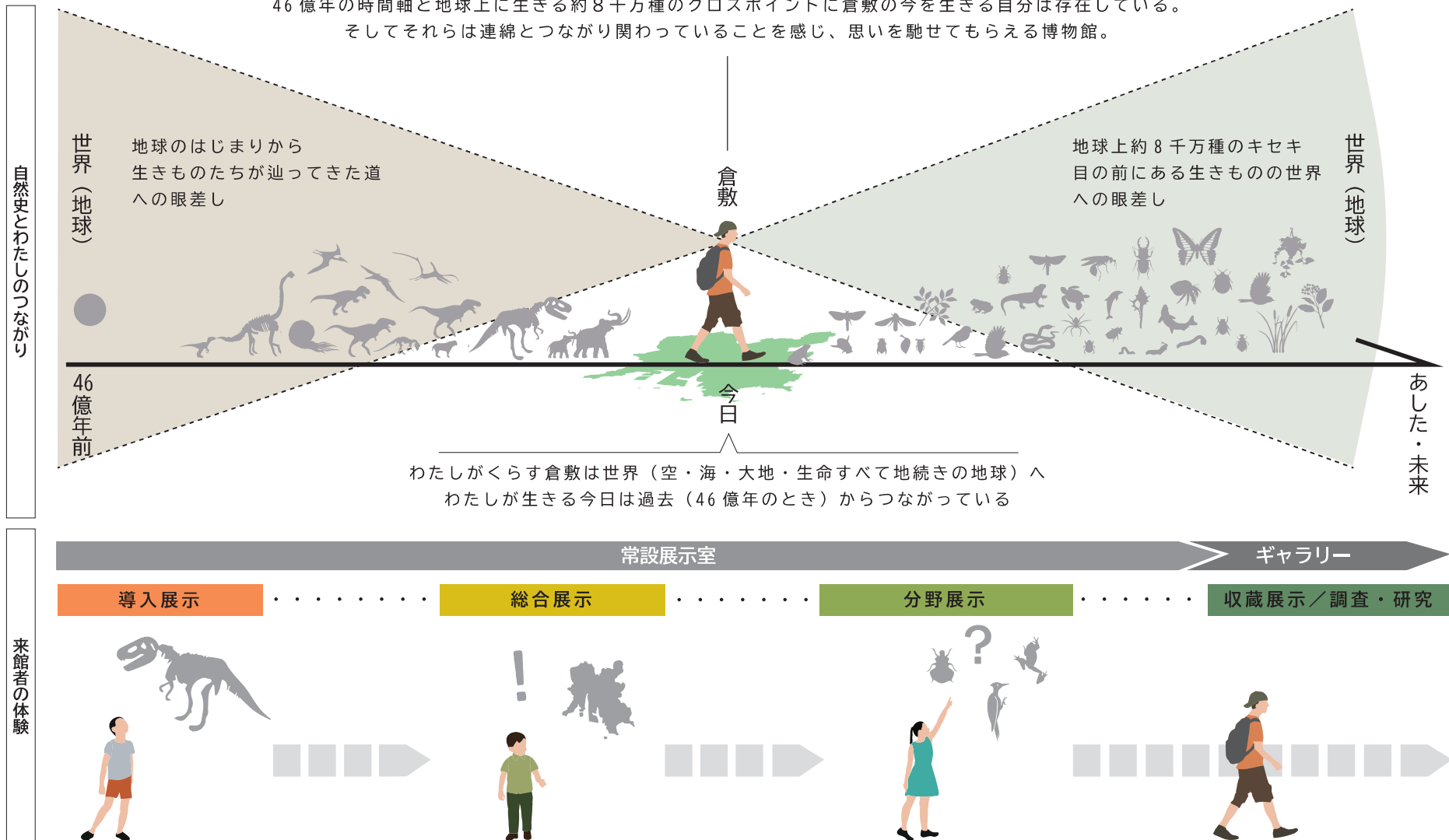
(1) 新自然史博物館のコンセプト

新自然史博物館では、倉敷にくらす自分と自然史とのつながりを意識してもらい、ともに未来を考える展示をめざします。

このことから、博物館のコンセプトを次のように掲げます。

倉敷に生きるわたしと46億年の歴史 地球上に広がる生命とのつながり

46億年の時間軸と地球上に生きる約8千万種のクロスポイントに倉敷の今を生きる自分は存在している。
そしてそれらは連綿とつながり関わっていることを感じ、思いを馳せてもらえる博物館。



4 展示計画

(2) めざす姿と来館者の体験及び展示テーマ

『「知」「学」「楽」のバランスがとれた博物館』とするため、「知りたい」に応える、「学び」を深める、気楽に「楽しむ」など、来館者の自然史に対する興味関心の度合いに応じた展示の入り口を提供。

展示体験を通じて自然史に興味を持つところから、身近な倉敷の自然に目を向け、地球上の自然や生きものへ視野を広げていくように、探究心の向上へとつなげます。

新自然史博物館が「めざす姿」

来館者の体験

展示構成概要

知らず知らずのうちに高まっていく自然史への興味関心

調査・研究の深化をめざす施設へ

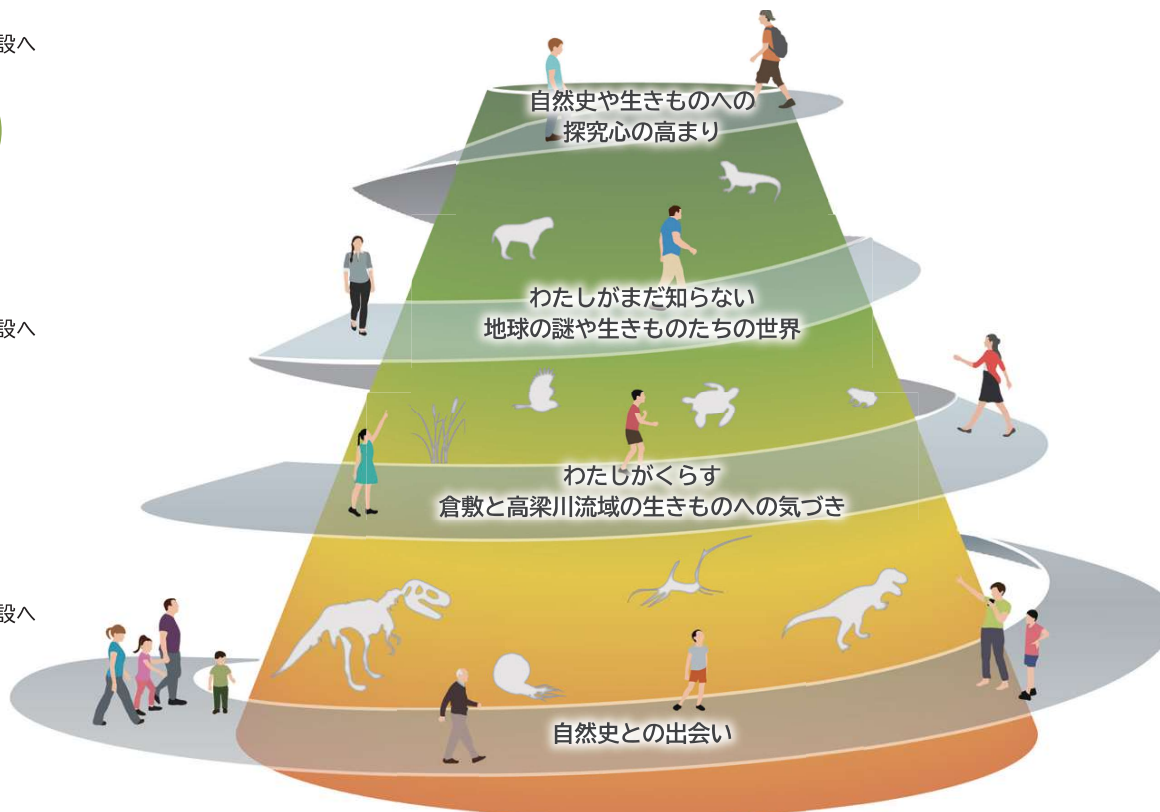
学

教養・文化の向上をめざす施設へ

知

市民が集い憩うにぎわいの施設へ

楽



ギャラリ

収蔵展示／調査・研究

4 博物館探検ギャラリー

博物館の活動と舞台裏

分野展示

3 大地と生きもののふしぎ

地球上に広がる約8千万種
地球の石ころと生きものたちの世界

常設展示室

総合展示

2 倉敷の自然

倉敷と高梁川流域の自然界

導入展示

1 100万点の博物館コレクション 生命の大作進

倉敷に生きるわたしと46億年の歴史
地球上に広がる生命とのつながり

展示テーマ

博物館まるごと 標本の森

100万点の収蔵資料を最大活用する、博物館がまるごと標本体感空間。標本の魅力を最大限引き出す展示演出や、本物の感動に出会う空間演出で何度でも来たい体験価値を創出。市民と収蔵資料の価値を広く共有し、自然史の魅力を伝えます。

展示の全体方針

- 1 圧巻のスケール感を体験できるダイナミックな展示や、膨大な群の展示で空間を構成。標本の世界に包まれる没入体験により、ここでしか味わえない体験価値を提供。
- 2 標本を1つの作品のようにさまざまな角度や高さから鑑賞でき、何度来ても毎回違った発見や気づきに出会える展示や空間演出。
- 3 膨大な収蔵資料を持つ博物館だからこそ実現できる企画性の高い展示。収蔵資料を新しい見方や多彩な切り口で編集し、来館者に様々なきっかけを用意することで自然史ファンの間口を広げる。
- 4 展示を見るだけでなく、自然史博物館の役割も知ってもらい、博物館活動の価値を実感できる参加体験プログラムを用意。
- 5 膨大な収蔵資料を可能な限り活かす、更新性の高い展示。何度も繰り返し訪れたい展示のしぐみを構築。

4 展示計画

(3) 展示構成

展示は4つの大項目で構成。導入展示・総合展示・分野展示・収蔵展示／調査・研究と、展示をめぐるにつれて次第に来館者の興味関心が高まると同時に、それに応えることのできる展示構成とします。

展示構成の骨組み

常設展示室

ギャラリー

導入展示

驚き、期待感
好奇心

46億年前から脈々と続いてきた
自然史との出会い

1 100万点の標本コレクション 生命の大作進

①地球 46億年の歴史と 生命の進化

更新頻度：長期
更新頻度：中期

総合展示

興味、気づき
なるほど感

わたしがくらす倉敷と
高梁川流域の生きものへの気づき

2 倉敷の自然

①地形・地質と気候 ②倉敷の生きもの

更新頻度：長期
更新頻度：中期

分野展示

もっと見たい
もっと学びたい

わたしがまだ知らない地球の謎や
生きものの世界への興味の広がり

3 大地と生きもののふしぎ

- ①大地と化石 更新頻度：長期
- ②化石のふしぎ 更新頻度：中期
- ③生物超図鑑 更新頻度：長期
- ④植物のふしぎ 更新頻度：中期
- ⑤昆虫のふしぎ 更新頻度：中期
- ⑥動物のふしぎ 更新頻度：中期
(魚類、鳥類など)
- ⑦その他生きもののふしぎ 更新頻度：中期
(菌類、藻類など)
- 探究型ライブラリスペース 更新頻度：中期
- 生物多様性とわたしたち 更新頻度：中期
- 生きもの最前線 更新頻度：短期

収蔵展示／調査・研究

博物館っておもしろい
家族に話したい
また来たい

自然史博物館の役割の理解や
活動への共感

4 博物館探検ギャラリー

- ①収蔵展示
- ②調査・研究室
- ③自然史博物館の活動
(学芸員のしごと紹介、講座・観察会のPRなど)
- 市民参加型標本展示
- ワークショップ

展示更新の考え方

展示スペースは長期・中期・短期エリアに概ね3分割し、長期エリアは新設時の展示を継続、中期エリアは10年を目処に展示更新、短期エリアは学芸員を中心に館職員により年に2～4回の更新が可能な展示とする。

更新頻度：長期：自然史博物館のコアとなる、不変的な展示として新設時の展示を継続していく。

更新頻度：中期：10年を目処に展示内容の更新・リニューアル整備を実施する。

更新頻度：短期：学芸員を中心に館職員の手で、年に2～4回程度の更新ができる展示とする。

4 展示計画

(4) 主な展示内容

展示構成に基づき、4つの大項目ごとに展示コーナーを構築します。

1 100万点の標本コレクション 生命の一大行進

常設展示室

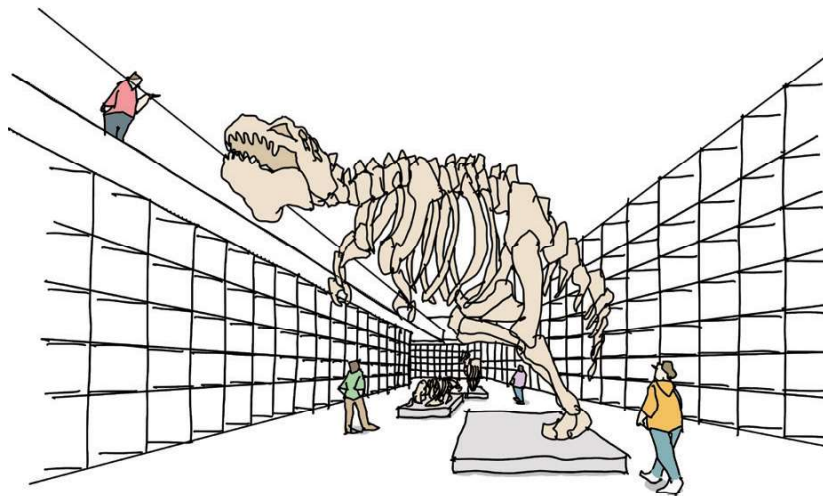
導入展示

<概要>

時間も空間も超えた膨大な生きもののタイムカプセル（標本）に囲まれる導入展示。
圧倒される大型標本の感動や、興味の赴くまま探索することで、新しい発見や出会いのある空間とします。

<ねらい>

- ・地球史46億年のダイナミズムを体感してもらいます。
- ・自然史に興味を持つきっかけをつくります。

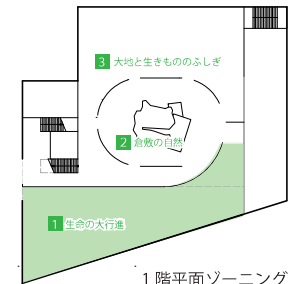


※様々なターゲットをカバーするコレクション展示の体験

- 来館者全体：たくさんの標本や大きな恐竜骨格標本に囲まれて驚き・ドキドキ・ワクワク感が味わえる。
- 自然史ビギナー（子どもも含め自然史にまだ興味を持っていない人）：
多彩な切り口で標本を楽しめ、生きものに対する新しい見方に出会える。自然史に興味が芽生える。
- 自然史愛好家：膨大な標本を前に比較したり深く観察したり、より自分の知識が深められる。

① 地球46億年の歴史と生命の進化 更新頻度：長期

地球の誕生から生きものの進化のストーリーを紹介する地球46億年のタイムライン展示。



1階平面ゾーニング

◆歴史・時間軸

ティラノサウルスやナウマンゾウ、ニタリクジラなど。
迫力的大型標本を目玉コンテンツに過去から現在まで生命の歴史をたどる大型コレクション展示と生命の起源に関係する標本を展示。

地球と生命の歩みの中で見られる自然史のおもしろさを 更新頻度：中期
多彩なテーマ（切り口）で展開するトピック展示。

◆姿やかたち

例 ・トゲトゲ
・ふわふわ
・キラキラ
・ぺったんこ など

◆進化

例 ・今の姿と祖先（化石）シリーズ
・絶滅シリーズ など

◆生態や環境

例 ・住まいシリーズ：北で生きる・南で生きる など

◆生きるための 技や能力

例 ・能力や技シリーズ など

2 倉敷の自然

常設展示室

総合展示

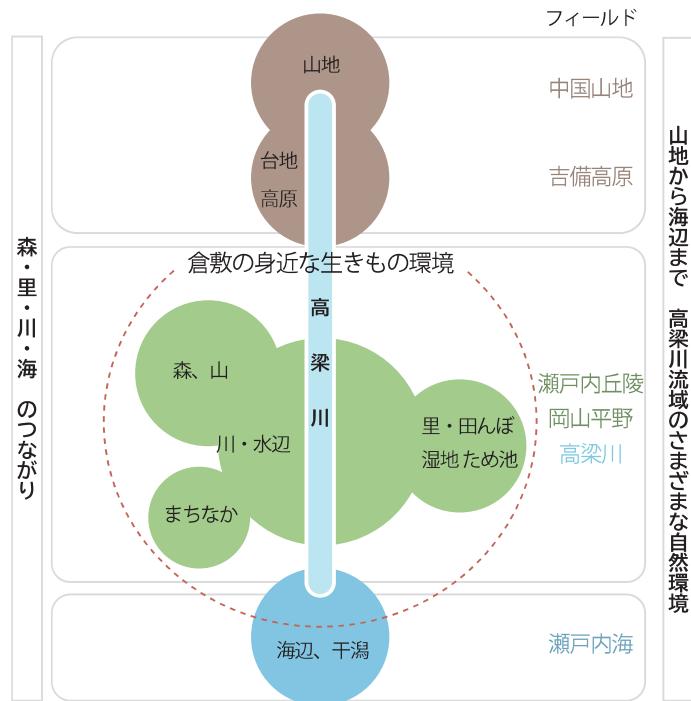
<概要>

倉敷と高梁川流域の自然や生きものの多様性を紹介する総合展示ゾーン。
生態系を凝縮したパノラマステージを中心に展開し、多彩な自然環境とそこにくらす生きものの多様性を紹介します。

<ねらい>

- ・身近にある自然や生きものを知ってもらいます。
- ・互いに関わりながら生きる生きものたちのつながりを感じてもらいます。

自然環境の概念



① 地形・地質と気候

更新頻度：長期

倉敷の地形や自然環境の成り立ちを概観する導入部。

◆地形・地質 ◆気候



② 倉敷の生きもの

更新頻度：中期

中国山地から瀬戸内海までの高梁川流域を中心とした多彩なフィールドとそこに息づく生きものたちを一望する生態系パノラマ。

- ◆中国山地
- ◆吉備高原
- ◆瀬戸内丘陵
- ◆岡山平野
- ◆高梁川
- ◆瀬戸内海

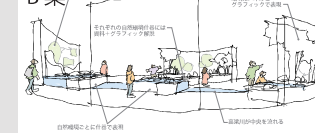
例 ・山地の生きもの

- ・石灰岩台地の生物相、高原の生きもの
- ・由加山・鶴形山・酒津八幡山などの身近な自然
- ・田んぼ・湿地・ため池・まちなかの生きもの
- ・川・水辺の生きもの
- ・海辺、干潟の生きもの

A案



B案



身近にいる生きもの同士のつながりに新しい発見があるトピックスの展開

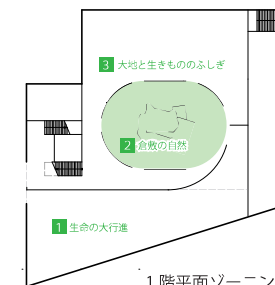
食べる食べられるをはじめとする生きものたちの関わり

- 例 ・昆虫と植物のつながり ・動物と植物のつながり
・動物同士のつながり ・植物同士のつながり
・その他 土壌の中の生きもののつながり など

その他：子ども向けに身近な生きもの紹介

身近な生きものにまつわる些細なテーマからフィールドへの興味をつなげるクイズトピックス

- 例 ・これ誰のもの？色々なセミの抜け殻あてクイズ など



1階平面ゾーニング

3 大地と生きもののふしぎ

常設展示室

分野展示

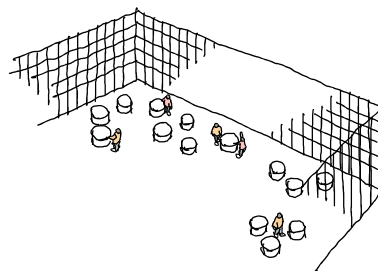
<概要>

分野ごとの魅力にフォーカスした分野展示ゾーン。

46億年の地球や生命の記録が刻まれた大地の謎や、長い時間、命をつないできた生きものたちの世界を紹介。継続的な部分展示更新によって100万点の資料を最大限活用し、訪れるたびに自然史の新たな魅力と出会える展示とします。

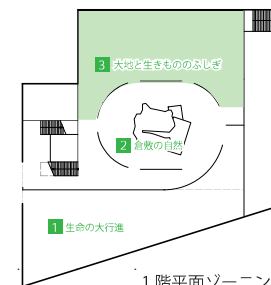
<ねらい>

- ・足元の大地の歴史や生物多様性を体感してもらいます。
- ・自然史に関する知識を自由に深掘してもらいます。



「大地」「生きもの（各分野）」の基本的な情報を壁面で紹介

「○○（各分野）のふしぎ」を体験的な展示で紹介



大地

46億年の地球の大地を作り上げる岩石や鉱物のひみつや大地の成り立ちを紐解く。

ウォールでの群展開 **更新頻度：長期**

① 大地と化石

- ◆地史と化石
- ◆地質と岩石

② 化石のふしぎ

- ◆化石とは？
- ◆化石ってどうやってできるのか

中央ゾーンでのテーマ別展開 **更新頻度：中期**

生きもの

38億年という長い時間に渡る生物界の進化によって出来上がった地球上8千万種の多様性。形や生きざまなど、1つひとつが異なる生きものたちの進化のストーリーやふしぎさに出会う。

③ 生物超図鑑

- ◆生物界の分類展示

④

植物のふしぎ

基本的な構成

⑤

昆虫のふしぎ

⑥

動物のふしぎ (魚類、鳥類 など)

⑦

その他 生きもののふしぎ (菌類、藻類 など)

歴史と分類 / からだやしきみ、機能 / 色・かたちの多様性 / 生きざま など

● 探究型ライブラリスペース

自分で発掘や深掘りする、来館者の探究を促進するスペース。学芸員おすすめの自然史関連の書籍や手に取れる標本などを自由に閲覧できるスペース。探究のきっかけとなるコンテンツも用意する。

更新頻度：中期

● 生物多様性とわたしたち

身近なところから生物多様性を考え自分も含めた生きもののつながりについて考えるきっかけを提供する。

更新頻度：中期

● 生きもの最前線（更新性のあるトピック展示）

新たに見つけた話題の虫や、季節に見られるフィールドの植物、学芸員の最新研究など、最前線のトピックを発信する。

更新頻度：短期

4 博物館探検ギャラリー

ギャラリー

収蔵展示／調査・研究

<概要>

膨大な収蔵資料や標本作製の作業の様子など、博物館の舞台裏をのぞくことができる収蔵展示／調査・研究。小学生を対象としたギャラリーツアーや愛好家向けの専門的なワークショップ開催、未就学児から自然史を楽しむきっかけとなる体験コーナーなど様々な企画を実施し、博物館と市民を結ぶ役割を担うゾーンとして位置付けます。

<ねらい>

- ・博物館活動への理解と共感を促します。
- ・博物館活動に積極的に参加したくなる気持ちを引き出します。

① 収蔵展示

博物館活動の蓄積を感じることができる見える収蔵庫

- ◆収蔵庫ってどんなところ
- ◆標本の役割
- ◆標本データベース

② 調査・研究室

標本作製の舞台裏を窓から見学できる標本作業室

- ◆調査・研究室って何をするとこ
- ◆現場展示

③ 倉敷市立自然史博物館の活動

博物館のミッションや意義を発信する展示コーナー

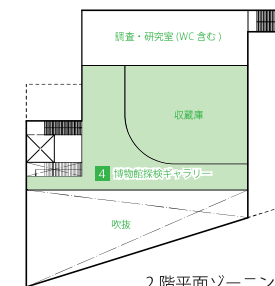
- ◆博物館の役割と活動
- ◆学芸員の紹介
- ◆学芸員の1日のしごと

● 市民参加型標本展示

ワークショップなどで制作した自分だけのオリジナル標本を展示するコーナー

● 手づくり教室

木の実や枝などの自然素材を使っておみやげをつくることのできるものづくり体験コーナー



2階平面ゾーニング



見える収蔵庫（参考写真：おしかホールランド）



標本の役割発信（参考写真：兵庫県立人と自然の博物館）



標本作業室
（参考写真：兵庫県立人と自然の博物館）



オープンラボの紹介パネル
（参考写真：長崎市恐竜博物館）



学芸員紹介パネル（参考写真：北海道博物館）



学芸員によるコレクションの見方解説
（参考写真：兵庫県立人と自然の博物館）

5 施設計画および配置計画

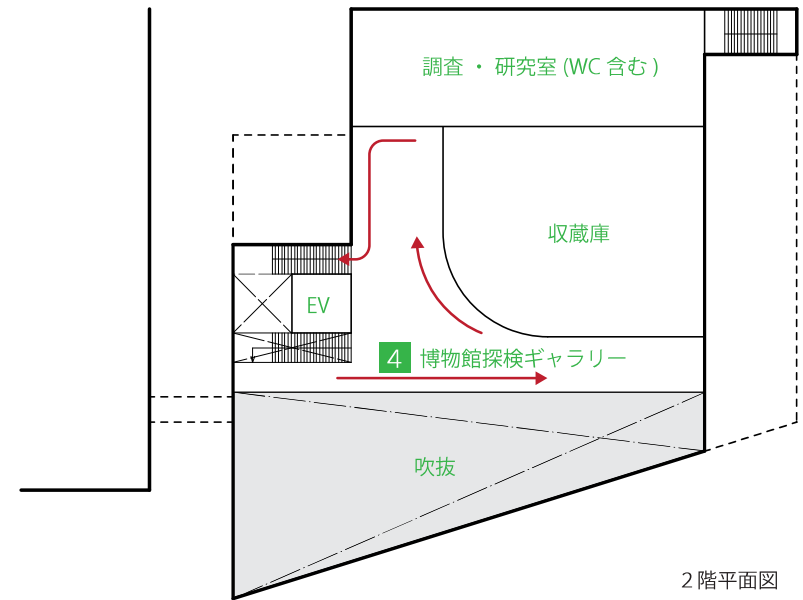
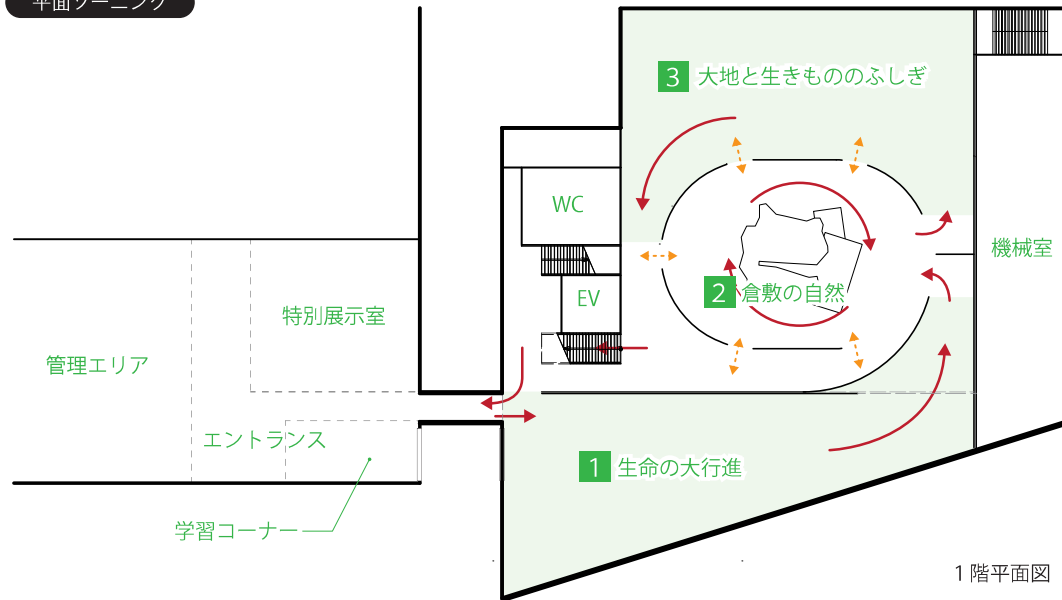
(1) 新自然史博物館ゾーニング（案）

前節のコンセプト・展示構成・展示内容をふまえた自然史博物館のゾーニング（案）は次のとおりです。

来館者の興味関心の度合いに応じて、奥へ奥へと進みながら探究していくような平面構成とします。

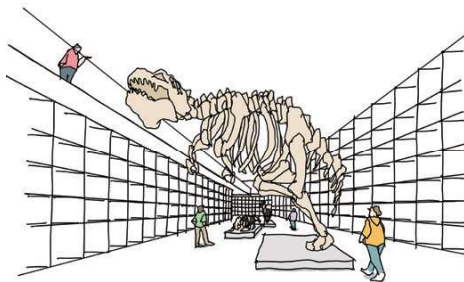
施設プラン（案）

平面ゾーニング

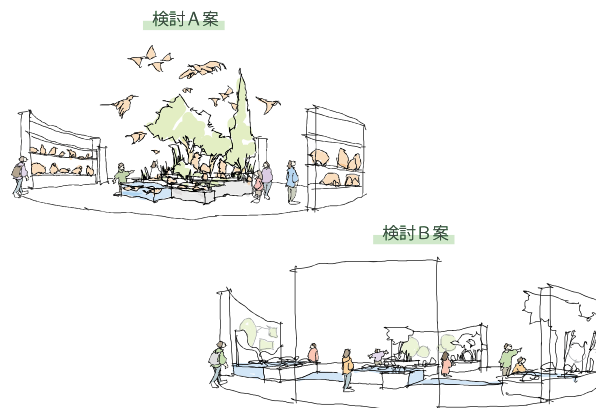


各ゾーン展示イメージ

1 生命の大道



2 倉敷の自然



3 大地と生きもののふしぎ














4 博物館探検ギャラリー



5 施設計画および配置計画

(2) 導入展示「生命の大きな進」展示予定の資料一覧

A1 ...11

①大型-1 ティラノサウルス化石 全身骨格レプリカ L=11500 W=1800 H=4600	②大型-4 ブテラドン化石 全身骨格レプリカ L=1700 W=1100 H=1000	③大型-6 ディアトリマ(ガストルニス)化石 全身骨格レプリカ L150 x W80 x H200 cm	④大型-7 トリケラトプス化石頭骨レプリカ L=130 W=160 H=190 cm	※ 林原コレクション以外 ...14	現生 ニタリクジラ全身骨格 1200×250×200 cm 以上	※ 現生 ホッキョクグマ 170×220×185 cm	現生 トラ 200×40×75 cm	現生 ケヅメリクガメ 85×57×40 cm
				※ ナウマンゾウ化石骨格レプリカ 500×150×260 cm	現生 スナメリ骨格 130×40×30 cm	現生 ヒグマ 120×80×160 cm	現生 アオウミガメ 120×80×40 cm	現生 マタマタ 53×37×18 cm
⑤7-6 岩石標本 L=470 W=470 H=10	⑥9-1 両生類化石レプリカ L=1000 W=1250 H=400	⑦11-2 両生類化石レプリカ L=900 W=1700 H=400	⑧28-2 霊長類化石 全身組上骨格レプリカ 体長約76cm	※ 埋没林 90×190×160 cm	※ 現生 イノシシ骨格 110×30×65 cm	現生 オオカミ 155×40×120 cm	現生 タイマイ 70×60×30 cm	現生 イリエワニ 160×40×40 cm
				⑨34-7 肉食動物化石レプリカ L=500 W=1400 H=800	⑩34-8 肉食動物化石レプリカ L=500 W=1900 H=1000	⑪42-4 板皮類化石頭骨レプリカ L=1400 W=930 H=1020		
								

A2 ...33

1)大型-5 大型アンモナイト化石レプリカ L200 W45 H180 cm	2)3-7 腕足類化石数種 90 x 150 x 2 cm(重量標本)	3)6-8 植物化石 37 x 39 x 2 cm	4)7-3 走鳥類の卵化石 23 x 23 x 30 cm	5)7-4 アンモナイト化石 40 x 60 x 10 cm	6)8-5 オウムガイ化石 11 x 5 x 75 cm	7)8-6 三葉虫化石 35 x 41 x 5 cm	8)8-8 三葉虫 違い跡化石 78 x 62 x 5 cm	9)9-2 始祖鳥化石レプリカ 61 x 49 x 1 cm
								
10)9-5 植物化石 32 x 23 x 6 cm	11)10-6 カブトガニ化石 106 x 46 x 2 cm	12)11-3 肉鱗類 備考欄参照	13)11-5 ジュゴン全身骨格 210 x 65 x 80 cm	14)11-6 肉鱗類シーラカンス L=33.5 W=14 体長28cm	15)11-7 カバ全身骨格 60 x 300 x 120 cm	16)14-2 三葉虫化石 55 x 28 cm (化石30 x 21cm)12"	17)27-3 条鰭類 39 x 101cm 体長83cm 40kg	18)27-4 条鰭類 80 x 82 体長48cm 35kg
								
19)27-5 イカ化石 120 x 61 cm (1枚) 体長100cm	20)28-8 無顎類 (重量標本100KG程度) 97 x 75 x 38 cm	21)30-4 ウマの仲間の化石レプリカ 50 x 120 x 25 cm	22)35-8 魚竜(ウツサウルス)化石レプリカ 50 x 80 x 6 cm	23)40-5 ニホンジカ全身骨格 75 x 165 x 141 cm	24)40-6 チンパンジー全身骨格 51 x 77 x 90 cm	25)40-7 ゴマファザラシ全身骨格 105 x 45 x 25 cm	26)40-8 ニルガイ全身骨格 145 x 45 x 136 cm	27)41-1 エステメノスクス レプリカ 65 x 30 x 53 cm
								
28)41-2 イノストラネケバ レプリカ 72 x 39 x 19 cm	29)41-3 プラティオボサウルス 頭骨レプリカ 34 x 18 x 9 cm	30)41-4 アスピエラ レプリカ 14 x 11 x 3 cm	31)41-5 プテリジウム レプリカ 26 x 16 x 4 cm	32)41-6 翼竜ソルデス化石 レプリカ 24 x 24 x 2 cm	33)41-7 始祖鳥化石レプリカ 42 x 52 x 3 cm			
								